

新温泉町中高連携方針報告書

令和5年11月

新温泉町中高連携方針検討委員会

目 次

はじめに	…1
I 新温泉町中高連携方針検討委員会の設置目的について	…2
II 兵庫県立浜坂高等学校と新温泉町立中学校の現状について	…3
1 生徒数の推移	
2 中学卒業後の進路状況	
3 浜坂高校の入学者数	
4 魅力ある学校づくりに関するこれまでの取組	
5 中高連携に関する中高生への意識調査結果	
III 浜坂高校と新温泉町立中学校の今後の教育の在り方について	…6
1 中学校・高等学校を取り巻く環境と課題	
2 中学校・高等学校で求められる人材育成	
IV 新温泉町における今後の中高連携について	…7
1 中高連携の目的	
2 中高連携の基本方針	
3 中高連携を推進するための取組（案）	
4 行政、学校、地域、企業の役割	
おわりに	…15
委員名簿	…16
報告用語集	…17

はじめに

新温泉町は、兵庫県北西部の山間部に位置し、総人口は年々減少しており、若年者の流出も大きな課題となっている。

国においても、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化している。また、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、学校への一人1台タブレットの配置などを加速させ、教育環境もかつてないほどの変化の波が押し寄せている。

そのような時代にあって、地域社会を担う人材育成は喫緊の課題であり、文部科学省が示す「教育進化のための改革ビジョン」においては、地域の絆を深め学校・家庭・地域が連携することや、全ての生徒の能力を伸長する高校教育の提供などが方向性として示されている。

町内唯一の県立高等学校である「兵庫県立浜坂高等学校」は、昭和23年10月に定時制高校として開校し、昭和26年には全日制課程が設置され、平成13年には温泉高校と統合、平成28年にはグローバルキャリア類型設置など、75年間の長きにわたり多くの卒業生を輩出し、現在の新温泉町を形成するための大きな力となっている。また、今後の持続可能な地域づくり、活力ある地域づくりのためには、引き続き地域社会を支える人材を育成していくことは、重要な役割と言える。

一方、兵庫県教育委員会においては、令和4年3月に、「県立高等学校教育改革第三次実施計画」を策定し、望ましい規模や、高校が少ない地域における県立高等学校のあり方を示した。

そこで、この度、浜坂高校の魅力や活力をさらに高めるとともに、持続可能な高校教育の方向性や、新温泉町内の中高の連携方針について検討する組織を立ち上げ、報告書を取りまとめた。検討委員会の実施にあたっては、急速に進む社会変化の流れを正確に読み取るために解像度を高めていくこと、また、目標の着地点を実現可能なものにするようお願いし、新温泉町を愛する情熱を持ちながら熱心に議論していただいた。議論の中では、県立と町立の見えない壁についての指摘が多く聞かれ、これからの高校の魅力づくり、中高の連携のためには、学校がより一層連携し合うとともに、地域や行政等も一体となって見えない壁を打破し、新たな価値を創造していく重要性について共通理解した。

町教育委員会には、本報告書の内容が広く町民に理解されるよう尽力されるとともに、地域と連携しながら未来志向の観点に立って、めざすべき目標の実現に向けて取り組まれることを期待する。

令和5年11月

新温泉町中高連携方針検討委員会
会 長 川目 俊哉

I 新温泉町中高連携方針検討委員会の設置目的について

新温泉町では、第3期新温泉町教育振興基本計画において、基本理念を「生涯にわたって生き生きと輝く教育～豊かに 人と人とがつながり 新温泉町の明るい未来を切り拓く～」とし、基本方針の1つに「生きる力を育む教育の推進」を掲げており、推進するための取り組みとして下記を示している。

1 確かな学力の育成

学力向上の推進、国際理解を深める教育の推進、情報活用能力の育成 など

2 「豊かな心」の育成

ふるさと意識を醸成する教育の推進、持続可能な開発目標のための教育の推進 など

3 「健やかな体」の育成

体力・運動能力向上の推進、食育の推進 など

4 「キャリア教育」の推進

体系的・系統的なキャリア教育（※1）の推進、社会に触れる機会の充実 など

少子化が加速する中、第3期新温泉町教育振興基本計画を推進するためには、幼・小・中学校はもとより、高校を含めた町内の教育機関が一貫した教育の推進を図ることが不可欠である。

新温泉町中高連携方針検討委員会では、更なる連携強化が必要な中学校と高等学校間の連携の在り方を検討すること、中高連携の在り方について一定の方向性を定めることを目的とし、会議を設置する。

Ⅱ 兵庫県立浜坂高等学校と新温泉町立中学校の現状について

1 生徒数の推移

新温泉町内中学校の生徒数は、令和元年度から令和10年度の推移状況（下図）のとおりに推移している。

中学校生徒数 ※令和6年度以降は見込、（ ）数字はR1を100とした割合（%）

	R1	R2	R3	R4	R5
夢が丘中	134	124(93)	120(90)	120(90)	111(83)
浜坂中	228	224(98)	237(104)	217(95)	207(91)
計	362	348(96)	357(99)	337(93)	337(93)
	R6	R7	R8	R9	R10
夢が丘中	103(77)	84(63)	82(61)	72(54)	80(60)
浜坂中	198(87)	191(84)	202(89)	186(82)	180(79)
計	301(83)	275(76)	284(78)	258(71)	260(72)

兵庫県立浜坂高等学校（以下「浜坂高校」という。）の生徒数は、令和元年度から令和5年度推移状況（下図）のとおりに推移している。

浜坂高校生徒数の推移 ※（ ）数字はR1を100とした割合（%）

	R1	R2	R3	R4	R5
浜坂高校生徒数	230	234(102)	214(93)	193(84)	185(80)

2 中学卒業後の進路状況

新温泉町内中学生の卒業後の進路状況は、平成30年度末から令和4年度末の推移状況（下図）のとおりに推移している。

中学卒業後の進路状況 ※（ ）数字は卒業生徒数に対する割合（%）

	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3
卒業生徒数	127	125	115	123	111
浜坂高校	78(61)	79(63)	55(48)	62(50)	65(59)
県内公立高校	19(15)	13(10)	14(12)	8(7)	7(6)
県内私立高校	3(2)	4(3)	4(3)	4(3)	10(9)
県外公立高校	5(4)	6(5)	5(4)	3(2)	5(5)
県外私立高校	19(15)	21(17)	34(30)	45(37)	22(20)

3 浜坂高校の入学者数

浜坂高校の入学者数は、令和元年度から令和5年度推移状況（下図）のとおり推移している。

浜坂高校の入学者数 ※（ ）数字はR1.4を100とした割合（%）

	R1.4	R2.4	R3.4	R4.4	R5.4
浜坂高校の入学者数	79	80(101)	58(73)	63(80)	69(87)

4 魅力ある学校づくりに関するこれまでの取組

新温泉町立中学校では、魅力ある学校づくりの取り組みとして、GIGAスクール（※2）の推進、ふるさと教育の推進、地域に学ぶトライやる・ウィーク、ニュージーランドとの国際交流等幅広い教育活動を推進している。

浜坂高校では、グローバルキャリア類型（※3）を中心に地域調査活動、浜高ラボ（※4）による地域問題に関する提起、麒麟獅子舞部など伝統文化の継承事業、台湾東港高級中学との国際交流等、特色ある取り組みを推進している。

また、中高連携の一環として各々の立場で次の取り組みを推進している。

- ・中高連携…①中高校長連絡会での情報交換 13回
②高校教師による中学校出前授業 6回
③生徒による松林清掃ボランティア 3回
④中学生の夏季講習での高校生学習指導補助 3回
- ・支援員活動…①地元企業との関係強化（就職者のフォローアップ、地元企業のニーズ調査など）
②グローバルキャリア類型の内容見直し等キャリア教育検討の補佐など
- ・教育委員会…①関係する活動の調整・支援
②中高校長連絡会の実施
③町民への情報発信（広報紙・ケーブルテレビの活用、報道機関への情報提供）
④高校説明会の内容充実のための協議

5 中高連携に関する中高生への意識調査結果

令和4年度に、新温泉町教育委員会が新温泉町の中学1・2年生及び浜坂高校生を対象に、中高連携についてのアンケート調査を実施した。

設問については下記の４点とし、回答者数は、中学生２１１名、高校生１１４名であった。

- ①町内の中学校と高等学校が連携を深めることをどう思いますか。
- ②問１で選択した理由を記入してください。
- ③どのような分野での連携が良いと思いますか。（複数回答）
- ④中高連携に関するアイデアや思いなどを自由に記入してください。

調査の結果、連携を深めた方が良い、どちらかというが良いとの回答が、中学生、高校生とも８割を超えており、子どもたちの間でも連携を取ることの必要性を感じている結果となった。

その理由については、中学生は、「学校間のかかわりが深くなって良い」「高校のことがよく知れる」「コミュニケーションがとれるようになる」等となっている。

また、高校生は、「中学生と高校生の距離を少しでも縮めることができる」「浜坂高校の良さを伝えられて、通いたいと思う人が増える」等となっている。

どのような連携が良いかとの問いについては、中高生とも、部活動での連携、生徒同士の交流、ボランティア活動などの割合が大きく、その理由としては、「スポーツを通じ交流が深められる」「アドバイスが受けられる」「お互いの学校のことを分かりあえる」等となっている。

中高生とも、学校同士が連携し生徒が交流することに対して、好感を持っており、中高連携の継続が望まれる結果となった。

【参考】中高連携についてのアンケート調査結果

	よい	どちらかという とよい	どちらかという と悪い	わからない
中 学 生	45%	37%	0%	18%
高 校 生	55%	32%	4%	9%

Ⅲ 浜坂高校と新温泉町立中学校の今後の教育の在り方について

1 中学校・高等学校を取り巻く環境と課題

前Ⅱ章生徒数の推移を見ても、中学校の生徒数は年々減少傾向にあるとともに、進路状況によると、卒業生の約4割は浜坂高校以外へ進学している現状がある。また、夢が丘中学校から浜坂高校への通学距離が長いため、送迎のある県外私立高校を選択する生徒も多く存在している。

兵庫県教育委員会が令和4年3月に発表した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」には、県立高等学校（全日制）の望ましい規模と配置が定められており、浜坂高校は定められている望ましい規模になっていない。

2 中学校・高等学校で求められる人材育成

今後の求められる人材には、社会情勢の厳しい変化が続く中においても理想とする未来に向け、新たな価値を創造したり、多様な他者と協働し「絆」を深めながら困難を克服したりする力が求められる。そのためには、中高生の発達段階を踏まえ、中高生が主体的に関われるよう、魅力的で系統性のある一貫した教育、「在りたい未来」に向け深みのある教育を推進する必要がある。そのことにより、中高生たちが今までにない大きな課題に遭遇しても、支え合い、高め合いながら躍動感あふれる資質能力を最大限に発揮し、課題を乗り越えていく大きな力を育成できると考える。

特に、ふるさと教育においては、新温泉町は地域固有の価値を高めてきたが、少子化、人口減少等により、伝統文化の担い手不足や、社会の成熟化による価値観やライフスタイルの多様化など大きな変化が起き、地域文化継承の危機となっているため、新温泉町が誇る様々な伝統文化、伝統芸能、地域資産、先人の生き方に触れる機会を充実させ、地域に根ざした行事への参画を促すなど、郷土を知り、愛し、語れる取り組みを推進し、ふるさとを誇ることのできる人材の育成が求められている。

また、世界的な競争と共生が進む現代社会のなかでは、広い視野をもち、コミュニケーション能力が高く、社会貢献の意識を持って行動する人材が重要視されているため、グローバル（※5）な視点で行動できる人材の育成を図る必要がある。

IV 新温泉町における今後の中高連携について

1 中高連携の目的

1) 視点

新温泉町に所在する中学校及び高等学校が地域とのつながりを深め、地域とともに生徒一人ひとりに寄り添った教育を実践することで、生徒たちが新温泉町を愛し、ふるさとに誇りを持てる教育を推進することは極めて重要となっている。また、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断・行動し、未来を切り拓く力は、町内外を問わず、今、求められている力である。そこで、中高連携の目的を示すために、現在の状況を【機会】【危機】【強み】【弱み】の4つの視点で整理する。

【機会】

現在の予測困難な時代の中、多方面で大きな改革が行われており、中高連携において、改革を推進する機会となっている。

- ・教育振興基本計画（国）の見直し
（社会の創り手の育成、ウェルビーイング(※6)の2大コンセプト)
- ・大学入試改革（令和7年実施分から新学習指導要領の対応、「探究」の重視）
- ・中教審(※7) 答申や諮問等で、高等教育と初等・中等教育の連続性が求められている。

【危機】

少子化の問題に加え、社会全体の人口減少が、公立・私立に限らず生徒や教員の獲得競争に拍車をかけており、持続可能な地域や学校づくりのためには改革が求められる。

【強み】

コミュニティ・スクール(※8)の取組が推進され、町全体の連絡協議会の設置も行われ、浜坂高校も含め、地域全体で教育を盛り上げている強みがある。地域のコーディネーターも、学校や地域を全力で応援する活動の輪が広がりつつある。

【弱み】

出生数が確実に減少していくなかで、新温泉町全体の学校園のあり方を考えなければならないと同時に、長期的に見れば、外部からの人材に頼らざるを得ない弱みがある。

2) 三つの基本理念

中高生が輝き、たくましく未来を生きるための中高連携の目的は、先ほど述べた【機会】×【強み】から導き出される、しなやかで、力強く、確固たる理念により、大きく前進できると考える。

新温泉町が積極的に進めているコミュニティ・スクールの強みを生かし、今までにない絆を強め、未来を創り出す【一貫性】【探究】【連携】を3つの基本理念とする。

【一貫性】

子どもたちの学びがつながる【一貫性】である。もちろん、単純な一体化を求めているのではなく、多様な生徒の可能性を広げるための【一貫性】であり、身につけたい資質能力や自らの夢を迷いなく追い求めることを支援できる体制の【一貫性】である。そのことで、生涯にわたって課題を見つけ、追求し続ける態度を養うこともできる。

【探究】

令和4年度から実施されている高等学校の「総合的な探究の時間」の目標や、すでに実施されている中学校での「総合的な学習の時間」の目標には、よりよく課題を解決していくことや、自己の在り方生き方を考えることなどが記されている。これらの生涯にわたる長期的な内容を踏まえても【探究】は時代の流れに沿った重要なキーワードとなる。【探究】を通して未来を切り拓く将来展望をもち、社会に参画・貢献しようとする社会の形成者を育成していくことは、本町においても早急に取り組まなければならない。

【連携】

学校間の連携のみならず、新温泉町全体が一体となった【連携】である。国が「社会の創り手」と「ウェルビーイング」を2大コンセプトに掲げているように、本町においてもその方向は同じである。持続可能な社会を築いていくための資質能力は、実社会を通して身につけていくことが重要である。同時に、予測困難な時代において「幸せ」を追い求めるためには、自分が「幸せ」だと実感する必要がある。

上記のような理由から、本委員会では【一貫性】【探究】【連携】を基本理念とし、具体的な方針を次に示す。

2 中高連携の基本方針

1) 魅力的で系統性のある探究を中心とした「ふるさと教育」の推進

第3期新温泉町教育振興基本計画では、「幼小中高が連携した教育の充実及び魅

力と活力ある学校園づくりの推進」を柱の一つとしている。具体的な方向性として、地域の教育資源を活用しながら、地域と一体となった「地域とともにある学校づくり」を推進すること。また、町内で行われる全ての教育を通じて一貫性のある教育を推進すること。そのために、幼小中高の連携を強化し、系統性・連続性のある教育活動の推進に努めることを明記している。浜坂高校においても、スクールミッション（※9）の中で、地域の未来について考え行動できる人材育成について明記し、地域と連携した体験的・協働的な探究活動を展開している。

新温泉町は、長い歴史のなかでこの地域固有の価値を高めてきた。しかし、少子化、人口減少等により、伝統文化の担い手不足や、社会の成熟化による価値観やライフスタイルの多様化など大きな変化が起きている。

本町は、長い歴史を刻む山陰海岸ジオパークをはじめ、日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落 諸寄港」や「麒麟が舞う大地『因幡・但馬』」の歴史文化財群、兵庫県初の世界農業遺産「兵庫美方地域の但馬牛システム」など、貴重な有形無形の文化財や遺産、歴史を数多く有している。また、天然資源も多く存在し、湯村温泉、七釜温泉、浜坂温泉など、町名の由来となっている「温泉」や「松葉ガニ」をはじめとする豊富な海産物、日本の黒毛和牛の素牛である「但馬牛」などがあり、これらは住民の心の拠りどころとなるとともに、ふるさと新温泉町の魅力づくりに大きな役割を担っている。

中高連携においても、新温泉町が誇る様々な伝統文化、伝統芸能、地域資産、先人の生き方に触れる機会の充実とともに、地域に根ざした行事への参画を促すなど、郷土を知り、語れる取り組みを推進する。さらに、中高校生の発達段階を踏まえ、中高校生が主体的に関われるよう、魅力的で系統性・連続性のある探究を中心とした「ふるさと教育」を推進する。その際、コミュニティ・スクールの組織や取り組みも十分に生かす。

2) グローバル社会を担う人材育成の推進

本町では、自らのアイデンティティ（※10）をもちながらグローバル化が進展する社会で活動できるよう、語学力やコミュニケーション能力を育成するとともに、国際交流等により、言語・文化・習慣等が異なる人々と積極的に交流する機会の充実を図ってきた。また、「人権啓発推進条例制定のまち」として、人権尊重の理念に対する理解を深めるとともに、外国の人々をはじめ多様な他者と共生する態度を育成するため、学校園・家庭・地域が連携し実践を積み重ねてきた。近年では、ダイバーシティ（※11）と呼ばれる多様性に満ちた社会で生きていくため、性的マイノリティ（※12）などの今日的な課題についても学びを深めている。

中高連携においても、異なる考え方や、異なる言語・文化・習慣等を有する集団の中で主体的・協働的に行動し、新たな生き方や価値観を生み出せる教育を推進していく。

具体的には、国際理解教育や国際交流を通じて自らの国や郷土を愛し、誇りを

もつとともに、自らのアイデンティティを確立し、他国の伝統と文化を尊重す態度の育成を図る。さらに、大学等とも連携しながらコミュニケーション能力、非認知能力（※13）を高めるワークショップ（※14）の充実を図る。

また、創造力や挑戦する心を育むアントレプレナーシップ教育（※15）の推進を図るため、商工会や地元企業と連携した取り組みを行う。

ICT（※16）を活用したオンライン交流（※17）も進んでいることから、情報活用能力の育成やインターネット上における情報モラル教育、遠隔授業・遠隔交流にも積極的に取り組む。

3）地域性を生かした持続可能な中等教育の推進

人口減少、少子化の大きな課題を有する本町において、持続可能な社会づくりは重要であり、第3期新温泉町教育振興基本計画においては、持続可能な社会づくりの担い手を育むことや、持続可能な地域づくりのための教育を推進することを明記している。また、第2次新温泉町総合計画（後期基本計画）においては、浜坂高校は町内唯一の高等学校として、学校の特色を生かした教育や地域連携活動等を支援することや、浜坂高校の魅力向上につなげることを明記している。

そのような中、本町では小規模な自治体の強みを生かし、密度の濃い中高連携を推進してきた。特に、新時代の高等学校教育の実現に向けた制度改正により、令和4年度より高等学校は学校が立地する自治体と連携に努めることとなり、様々な連携を深めている。具体的には、生徒同士の交流、高等学校教員の出前授業、管理職の合同会議、町職員の高等学校への派遣などである。令和5年3月に新温泉町教育委員会が中学校1・2年生と高校生を対象に実施した中高連携の取り組みに関する中高生の意識調査では、連携をしてきた中高校生の83%が、連携を「良い」または「どちらかというが良い」と回答している。

また、本町の後期基本計画の策定にあたって、当時の浜坂高校生に将来の進路やUターンの意向調査を行ったが、そこでは、進学・就職で新温泉町を離れても、将来は故郷に「Uターンしたい」と思う生徒は31.4%あり、「Uターンしたくない」と思う生徒の9.6%を大きく上回っている（「わからない」と答えた生徒は56.3%）。

これらの調査結果を踏まえると、本町における持続可能な社会づくりの担い手を育むため、中高連携をさらに推進し、本町の中等教育（※18）を時代に応じたものに進化させていくことが重要である。

今後の中高連携においては、本町の地域性を生かした持続可能な中等教育に向け、取り組みを強化していく。具体的には、本町の取り組みは、兵庫県内ですでに実施されている「連携型中高一貫教育校」の取り組みと重なる面が多いため、この取り組みを土台とし、さらに新温泉町モデルとして、家庭や地域の理解を得ながら中学校3年間、高等学校3年間において系統性・連続性のある特色と魅力にあふれた教育活動の推進を図る。

3 中高連携を推進するための取組（案）

中高連携を推進するためには、めざす資質・能力をまずは共通理解する必要がある。中央教育審議会答申においては、感性を豊かに働かせながらよりよい社会と幸福な人生の創り手となるよう、次のような資質・能力を求めている。

- ◆【未来に生きて働く「知識及び技能」】
何を理解しているか何ができるか
- ◆【未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」】
理解していること・できることをどう使うか
- ◆【学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」】
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

以下に、上記の資質・能力を育成しながら中高連携を推進するための取り組み案を示すので、今後、関係者により具体的な取り組みを検討し、中高連携を推進されたい。

1) 中学校・高等学校を中心に取る取組事項

①ふるさと教育の体系的・系統的な推進

新温泉町は「海・山・温泉」の自然環境に恵まれており、3つの温泉や山陰海岸ジオパーク、上山エコミュージアムなどを活用した観光、但馬牛に代表される畜産、松葉ガニやホタルイカなどの水産物、麒麟獅子舞や北前船などの文化遺産など、魅力ある町である。

そうした環境を踏まえ、小学校を含め、各段階に適したふるさと教育を推進し、ふるさとの魅力を知るとともにふるさとの魅力づくりに貢献できる人材の育成を図る。加えて、ふるさと教育の実践において、地域の人々に積極的に協力していただくことで、地域と学校・児童生徒との「絆」を育む。

小 学 校 … 校区の魅力を知る体験

中 学 校 … 学んだ魅力を持ち寄り、地域の課題を探究し、地域に貢献

高等学校 … 町内の魅力づくり、課題解決を研究

②グローバルな人材の育成

世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って異なる言語、文化、価値を理解し、関係を構築するためのコミュニケーション能力、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識の醸成を図る。

また、地域の特徴を生かし、創造力や挑戦する心を育むアントレプレナーシップ教育を推進し、世界的に通用する人材の育成を行う。

③ICT 環境の活用

国が提唱する「Society5.0」(※19)を受け、GIGA スクール構想として小学校から高等学校までタブレットを活用した ICT 教育を実践している。町内小中高とも Windows タブレットを使用しているため、操作方法に差異がなく、一貫した取組が行いやすいため、有効に活用をすべきである。

特に、距離のある学校との交流や外国との交流には、ICT によるリモート交流が重要なツールとなりえるため、引き続き環境の整備に努める必要がある。

④情報の提供

各校とも保護者に対し、学校だよりやホームページによる情報提供は行っているが、中高教員間の情報共有が不足しているため、中高の教員が連携して情報の相互提供の機会をつくる必要がある。

また、地域住民に対する情報提供が不足しているため、町広報を利用した情報の提供、学校だよりの全戸配布、インスタグラムなどの SNS を利用した情報発信など、情報提供の機会を増やし、地域への学校に対する理解を深める必要がある。

⑤各種資格取得の推進

学生時代に各種資格を取得することは、進学、就職活動に有利となる。

現在、能力検定や資格取得に取り組んでいるが、より一層充実を図ることが必要である。

2) 学校と関係機関や地域で取り組む事項

⑥国際交流の推進

現在、ALT(※20)が小学校に2名、中学校に2名、高等学校に1名(香住高校と兼務)在籍しており、認定こども園から高等学校までの外国語教育、特に英語教育を行なっている。

引き続き、ALT の確保に努め外国語教育の充実を図るとともに、各学校の ALT が連携し、授業交流等を推進する。

中学校ではニュージーランドとの交流、高等学校では台湾との交流を行っており、国際感覚を養っている。今後も引き続き、日本と友好な関係にある国々との幅広い交流により国際感覚の醸成に努めるとともに、相互交流、共同研究の可能性を追求する。

⑦中学・高校・大学の連携

地域の課題解決や魅力づくりに関し、大学の協力を得ながら、調査研究を進める。小学校から高等学校にかけてコミュニケーション能力の育成を図ることで、自制心、協働性、自己効力感など未来を切り拓く力を身に付ける。

連携に関しては、継続性が重要となるため、組織的な取り組みとなるよう工夫する。

⑧先人顕彰事業への参加及び参加校との交流

新温泉町では、先人顕彰事業として、前田純孝賞（短歌）、宇野雪村賞（書道）を行っている。顕彰事業への参加を促進するとともに、既に学校単位で顕彰事業へ参加している学校等と交流を行うなど、先人顕彰事業の活用を検討する。

3) 学校、生徒で取り組む事項、保護者への支援

⑨生徒会や部活動の連携

生徒会を中心に行われていた松林清掃ボランティアが、中高連携事業になったように、生徒が中心となり学校の連携を深めることが可能であると考ええる。

引き続き生徒会連携を行い、発展的な事業展開に期待したい。

また、生徒数が減少する中で、一部部活動ではすでに合同練習を行っているが、今後もより良い部活動のあり方に向け、連携を図ることを期待する。

⑩保護者への支援

浜坂高校路線バス通学者に対する補助については、引き続き継続を求めるとともに、帰宅便の増加や利便性の向上などを求める必要がある。

また、昼食の負担軽減について、学校給食センターによる給食の提供も考えられるが、受け入れ側の施設整備、指導方法の協議、配給方法の構築等課題が多くある。食堂の設備としては、利用可能な状態にあるため、食堂再開に向けた模索も必要である。

中高の制服や体操服の統一も保護者支援となりえるため、学校間での検討も必要である。

4) 中長期的な視点で取り組む事項

⑪将来的な生徒確保の方策

急速な少子化の進行により、近い将来生徒の確保が難しくなることが容易に想定されることから、町外からの生徒確保が必要である。

特に、公共交通機関で通学可能なエリアである、香美町、豊岡市方面の生徒に対し、浜坂高校の魅力を発信するとともに、選ばれる学校づくりに取り組むことが重要である。

町外から生徒確保することにより、違った視点で学習内容を深めることができ、探究学習を中心とした浜坂高校の魅力ある教育をさらに充実することが出来ると考える。このことは、町外からの入学生にとっても魅力あるものになると考える。

また、通学エリア外からの生徒確保も重要であるため、現在認められていない

鳥取県を含む、全国から生徒が確保できるよう、県教育委員会に対し制度改正を求めることも必要である。

5) 中高一貫教育制度（※21）活用の検討

⑫連携型中高一貫教育校（連携型中学校・連携型高等学校）への移行

連携の体制づくりとして、兵庫県教育委員会が令和4年3月に発表した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」では、連携型中高一貫教育校が示されており、中高連携を継続的に推進するための有効な方策と考える。

4 行政、学校、地域、企業の役割

・新温泉町

本方針を実現するため、町長の下で関係部局はその目的を理解し、積極的に実践に関わる。

・新温泉町教育委員会

本方針の実現に向けた取り組み状況を掌握し、必要に応じて関係部局との調整や学校への指導助言を行う。また、体系的・系統的な取組とするため町内の全学校で情報共有を図るとともに、コミュニティ・スクール等を通じ、町民に対し取り組み状況の周知を行う。

・中学校、高等学校

本方針の実現に向け、幼小中高連携を基本方針に掲げた本町の教育振興基本計画や国・県の動向を踏まえ、系統性・一貫性のある教育を推進する。また、コミュニティ・スクール等を活用し、地域住民や地元企業と協働し、本方針を実践する。さらに、関係学校で合同会議等を開催するなど学校間の連携を図る。

・小学校

本方針の実現に向け、中学校、高等学校への接続を見据えた教育を行う。特に小学校の発達段階を踏まえ、地域に密着した体験活動を積極的に取り入れる。またコミュニティ・スクール等を活用し、地域住民の温かさや、ふるさとの豊かな教育資源に触れ、学ぶ喜びや楽しさを実感できる教育を推進する。

・地域住民、地元企業

本方針の実現に向けた取り組みに対し、関係学校と協働し積極的に参加するよう努める。

おわりに

この報告書を作成するにあたり、検討委員会4回、部会2回を開催し、検討を行ってきた。検討委員の皆様には、平日にも関わらず出席いただき、熱心に検討を行っていただいたことに、改めて深く感謝を申し上げます。

新温泉町の子どもたちが、ふるさとを愛し、誇りを持てる大人に成長するとともに、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断し、行動し、未来を切り拓く力を身に付けるためには、魅力的で系統性・連続性のある教育の確立が重要である。

新温泉町における、中高連携の取り組みについては、これまでも行われていたが、学校・地域住民・保護者・行政が集い、取り組みについて本格的に検討し、魅力的で系統性・連続性のある教育が確立できるよう、本報告を作成した。

本年は兵庫県立浜坂高等学校創立75周年を迎え、郷土愛と創造力育成へ向け、地域と連携した探究活動や国際的な視野を養う教育に発展的に取り組まれている。

より一層、学校間の連携を図るとともに、地域住民・保護者・行政が連携し、あらゆる課題の解決に向け、取り組みをさらに深化させる必要がある。

本報告書が、新温泉町の子どもたちの明るい未来をつくるため、教育のさらなる魅力の向上と、持続可能な教育体制の構築、系統性・連続性のある教育活動の推進の一助となるよう期待する。

新温泉町中高連携方針検討委員会委員

学識経験者	川目 俊哉	芸術文化観光専門職大学副学長	
保護者代表	下田 直也	浜坂高等学校	P T A会長
	西村 泰子	夢が丘中学校	P T A副会長
	小川 弘眞	浜坂中学校	P T A会長
地域住民代表	猪坂 悦司	浜坂高等学校	学校評議員
	角田 和寿	夢が丘中学校	学校運営協議会委員
	上島 秀徳	浜坂中学校	学校運営協議会委員
高等学校長	濱本 貢	浜坂高等学校	
中学校長	田中 千尋	夢が丘中学校	
	塩出 武	浜坂中学校	
教員代表	岡村有為子	浜坂高等学校	
	西村 史代	夢が丘中学校	
	井上とし子	浜坂中学校	

(敬称略)

報告書用語集

番号	用語	用語の意味
1	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる教育。
2	G I G Aスクール	2019 年 12 月に文部科学省が発表した教育改革案 GIGA は、Global and Innovation Gateway for all の略で「すべての児童・生徒にグローバルで革新的な 扉を」という意味。
3	グローカル キャリア類型	浜坂高校の 1 つの教育課程。 「グローカル」は global (地球規模の) と local (地域 の) を組み合わせた造語。
4	浜高ラボ	「総合的な探究の時間」やグローカルキャリア類型 での学習において、地域の課題の発見と問題解決に 向けた研究について、学校全体で取り組んだ成果を 発表する場。英語で「研究所」を意味する Laboratory の略で「ラボ」と名付けている。
5	グローバル	「地球規模の」や「球状の」などを表す英語が由来で す。 国境を越えて地球全体にかかわるさまを表し、 世界的規模のという意味でも使われます。
6	ウェルビーイング	経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・ 感情・価値、健康について、個人のみならず個人をと りまく「場」が持続的によい状態であること
7	中教審	中央教育審議会の略称。 文部科学省に設置された審議会で、文部科学大臣の 諮問に応じ、重要事項を調査審議し、意見を述べる。
8	コミュニティ ・スクール	学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り 組むことが可能となる「地域とともにある学校」への 転換を図るための有効な仕組み。 学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体 となって特色ある学校づくりを進めていくことがで きる。
9	スクールミッション	高等学校における教育活動の特色・魅力を明確にし るために、学校設置者が存在意義や教育理念、育成す べき人物像や期待される社会的役割等を明確にした もの。

番号	用 語	用語の意味
10	アイデンティティ	「さまざまな個性をもつ他者・社会との関わりにおける自分らしさ」という意味
11	ダイバーシティ	「多様性」の意味で、人種・性別・宗教・価値観などさまざまな異なる属性を持った人々が、組織や集団において共存している状態。
12	性的マイノリティ	同性に恋愛感情をもつ人や、自分の性に違和感がある人などのこと。
13	非認知能力	意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない能力。
14	ワークショップ	参加者が主体的に参加する体験型の講座。
15	アントレプレナーシップ教育	起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）と起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材を育成する教育。
16	I C T	PC だけでなくスマートフォンやスマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。
17	オンライン交流	インターネット回線につながっている状態で、P C やスマートフォンを使い交流を行うこと。
18	中等教育	中学校と高等学校およびこれに準じる水準の教育。
19	S o c i e t y 5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。 狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもの。
20	A L T	Assistant Language Teacher 外国語指導助手の略。
21	中高一貫教育制度	P19 を参照

中高一貫教育制度の概要

1. 制度の趣旨

従来の中学校、高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、中央教育審議会第二次答申（平成9年6月）の提言を受けて、「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成10年6月に成立し、平成11年4月より、中高一貫教育を選択的に導入することが可能となりました。

2. 中高一貫教育の実施形態

1) 中等教育学校

一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うものです。

2) 併設型中高一貫教育校（併設型中学校・併設型高等学校）

高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するものです。

3) 連携型中高一貫教育校（連携型中学校・連携型高等学校）

町立中学校と県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等において連携を深めるものです。

3. 県内における中高一貫校

海外から帰国した生徒等を対象に6年間の中高一貫教育を行う「芦屋国際中等教育学校」と、地域性のある小規模の公立中学校と県立高等学校が教育課程等の連携を図る「連携型中高一貫教育校（県立氷上西高等学校と丹波市立青垣中学校・丹波市立氷上中学校、県立千種高等学校と宍粟市立千種中学校）」を設置。連携型中高一貫校では、以前からのそれぞれ校舎を活用し、現行の学習指導要領に基づく教育の中で連携を行っている。